| | |
|---|---|
| 事例No. | 1578 |
| 公表年度 | R3 |
| 団体の属性 | 複数団体 |
| 団体名 | 京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会（舞鶴市、福知山市、綾部市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町） |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・副業・兼業活用<br>・関係人口<br>・人材確保・育成 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 副業・兼業活用 |

事例内容・タイトル

「海の京都」未来共創ネットワーク

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会資料1　事例調査結果（最終報告）

# 【地方自治体①】京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会（会長市：舞鶴市）

【事業名】「海の京都」未来共創ネットワーク

【実施主体】京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会（会長市：舞鶴市、他に福知山市、綾部市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）
京都北都信用金庫

【実施経緯】

近年の人口減少に歩調を合わせるかのように地場企業の担い手も減少、雇用の縮小も進み、今15万人といわれる生産年齢人口も、将来1／3まで減ると言われている。やはり地域が元気でないと、地域の将来はなく、外からの刺激と言うことで外部人材の活用を模索し、当初は常勤の内閣府の「プロフェッショナル人材拠点事業」を活用したが、なかなか成果があがらなかった。

一方、コロナ禍にあって、テレワークが一気に進み、地方自治体での副業・兼業活用も盛んになる中、地域内の宮津市が副業での行政人材の募集を実施。これに対し、全国から470を超える応募があり、これらの応募者は、副業先が自治体でなくとも同地域で活動することに興味を持っているのではないかと、そう考えたところ。これらの経緯から本事業の開始に至ったもの。

【準備状況】

本事業は各市町の単独の事業ではなく、地域内5市2町の共同事業として実施。事業のスキームは、常在の広域連携機関である「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会（会長市：舞鶴市、以下「協議会」という。）」で予算措置し、副業・兼業のマッチングを手がける(株)みらいワークスの「Skill Shift」に地元企業の募集情報を掲載。その掲載に係る経費を協議会で負担。

【実施状況】

これから運用が開始するところで、1つでも多くの成功例を作り出すべく、伴走支援を京都北都信用金庫（具体的には各市町の支店）が中心となって行っていく予定。人と人との話なので、何らかの軋轢は出てくるが、その辺りも十分に考えながら、先進的な他地域事例なども参考に進めていく。

【副業・兼業人材の地域との関わり】

今後の展開の中では、大いに期待すべき事項と考えている。関連した話ではあるが、地元ファンの獲得ということでは、先に実施した宮津市の副業・兼業人材事業で、副業・兼業人材の配偶者が非常に当地を気に入り、熱狂的な「宮津ファン」になったという事例がある。

【今後の展望】

当地の企業は、何かしないといけない危機感は持っているものの、何をして良いか分からない。副業・兼業人材には、経営者（社長）の壁打ち相手になってもらい、その中から経営者に多くの気づきを得てもらいたい。その先の展望については、経過を見る中で、地域へどのような効果が考えられるのかが見えてくるところがあると思う。

【外部からの支援】

地域等のその他の支援については、今後の経過の中で見えてくるところもあるのではと考えている。